

2023 年 12 月 12 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【クリスマス相場の時期に、大問題が勃発】

外国為替市場が「クリスマス相場」に入るのは、日本の勤労感謝の日が終わり、米国の感謝祭が終わってからです。

今年（2023 年）は、日本の勤労感謝の日と、米国の感謝祭が同じ日（11 月 23 日）でした。

つまり、マーケット（外国為替市場）は、既に、「クリスマス相場」に入っています。

+++++

外国為替市場では、基本的には、日本の政治が主要な材料（メイン・テーマ）になることが無いのですが（過去を振り返ると、無かったのですが）、さすがに、現在の「自民党安倍派の裏金問題」は、無視する訳にはいかない可能性があります。

日本の政局不安は、「円売り」の材料になる、と考えます。

ただし、現時点では、国会が明日（12 月 13 日）まで開いているので、「自民党安倍派の裏金問題」の本格的な追及は、国会が閉じてから、と考えます。

現時点では、この「自民党安倍派の裏金問題」が、自民党内の別の派閥にまで拡大するのか、また、他の政党にも広がるのか、不透明ですが、この「クリスマス相場」の時期に、大問題が勃発した感があります。

+++++

その一方で、先週（2023 年 12 月 7 日）、植田日銀総裁が参議院の財政金融委員会で、今後の金融政策運営について、

「年末から来年にかけて一段とチャレンジングになる」と述べた。

マーケット（外国為替市場）は、日銀が金融政策の修正、すなわち、日銀が利上げに向かう、と判断し、その結果、ドル／円は 141 円台に大きく急落した（＝ドル安円高が進行した）。

その後、ドル／円は 141 円台から 146 円台に大きく急反発（急上昇）しているが、こういった大きな振幅は、「クリスマス相場」の時期に特有の「市場参加者の薄いマーケット」で、乱高下している、と考えます。

+++++

つまり、ドル／円のこの大きな振幅は、日銀の利上げ観測が材料で「円買い」となり、「自民党安倍派の裏金問題」で「円売り」となった、印象です。

+++++

+++++

ここで重要視したいのは、日銀の金融政策が変更されるのならば、短期間ではなく、中長期に影響が及ぶ、ということ。

つまり、今月といった目先の視点ではなく、来年に向けて中長期でのスタンスで臨む必要がある、ということ。

そして、「自民党安倍派の裏金問題」も、短期間で決着する程度の問題ではない、ということ。

そうであるならば、「クリスマス相場」が明けて、来年（2024 年）になっても、この二つの材料は存在し続ける、と考えます。

+++++

+++++

『市場参加者が極端に少なくなるクリスマス・シーズンには、通常のサイズのポジションよりも、小さいポジションにするべきです。』

『クリスマス・シーズンには、ポジションを持たないことも戦略です。』

『来年になれば、また、通常のマーケットに戻るのは、今から分かっていること。』

それでも、どうしても何かしたいのならば、自分の対応できる範囲で、自身の納得する範囲でリスクを取る、それが重要です。

繰り返しますが、もうすでに、「クリスマス相場」に突入しています。

休暇に入れる人は、来年までポジションを取らずに、新年のスタートダッシュのために体力・気力を温存しましょう。

新年まで、もうわずかです。

できるなら、新年までのんびりすることも大局的な戦略です。

+++++

(2023 年 12 月 12 日東京時間 14 : 50 記述)